



地球惑星科学連合 (JpGU) 2017 年大会 開催報告

濱本昌一郎

日本地球惑星科学連合 (Japan Geoscience Union, JpGU, 2005 年設立) は地球科学を中心として、気象、海洋、地質、惑星科学など幅広い学問分野を扱う連合組織である。現在の会員数は 1 万人に近い。今年の連合大会は、JpGU-AGU Joint Meeting (AGU:アメリカ地球物理学連合大会) として 5 月 20 日～25 日 (6 日間) に、幕張メッセ国際会議場を中心として開催された。全参加人数は 8,000 名以上、発表は 5,500 件程度 (セッション数は 253 件) あり、非常に規模の大きい大会である。また、学生 (大学院生、学部学生など) の参加者割合は 33% と若手の参加も多い。

連合大会のセッションは宇宙惑星科学、大気水圏科学、地球人間圏科学、固体地球科学、地球生命科学、教育・アウトリーチ、領域外・複数領域、の 7 つのカテゴリーに分類される。また、通常のセッションとは別に、特別セッションとしてユニオンセッションとパブリックセッションがある。土壌物理学会は 2009 年に加盟し、いくつかのセッションについて共催という形で協力を得ている。2017 年度大会は、土壌物理学会の共催セッションとして、次の 3 つのセッションが開催された。

1. Subsurface mass transport and environmental assessment

大気水圏科学 A-GE39, 代表コンビーナ: 濱本 (東大)

発表言語: 英語

2. Biodiversity, nutrients and other materials in ecosystems from headwaters to coasts

大気水圏科学 A-HW32, 代表コンビーナ: 奥田 (総合地球環境学研究所)

発表言語: 英語

3. Battles of soil scientists for recapturing Fukushima land from Nuclear Power Plant accident

地球人間圏科学 H-CG31, 代表コンビーナ: 西村 (東大)

発表言語: 英語および日本語

A-GE39 と A-HW32 セッションは過去大会からの継続セッションであるが、H-CG31 セッションは 2017 年大会で新たに開催されたセッションである。各セッションのスコープは異なるものの、土壌物理学会会員による発表が各セッションで見られ、他分野の研究者を交えた活発な議論と交流が深められた。

本資料では、上記 3 セッションの概要および本大会での様子を報告する。